

進路指導の実態レポート 1

# 埼玉県立坂戸高校

## 卒業生の力も借りリアルな大学情報提供、自分を鍛える大学探しを支援しています



埼玉県立坂戸高校▲埼玉県坂戸市▲1971年開校▲全日制・男女共学（普通科、外国語科）生徒数1084名▲大学合格実績：国立／10名 私立／大東文化、東洋、日本、武蔵、駒澤、東京電機、文京学院、城西、東京経済、十文字学園女子、法政、帝京、獨協、亜細亜、東京家政、立正、国士館、跡見学園女子、専修、大正 他  
\*合格実績は2016年度入試での現役生のデータ（以下他校も同様）

防ぎ、全校で方針を共有するため、数年前に進路指導部主導の体制を整えました。模試の後に間違えた問題を解き直させる「模試ノート」の提出を全学年共通で課したり、1・2年生合同の「進学合宿」を行ったりと、他学年と共通の取り組みも行っていきます。

指導方針として重視しているのは、「より自分を鍛えてくれる大学」をめざすように導くこと。生徒が最も成長できそうな大学を見つげられるように、できるだけ多くの選択肢を与える工夫を講じています。

例えば教員が大学説明会にママに参加し、得られた情報は廊下に貼り出し、生徒と共有しています。大学の選び方の指導では、偏差値以外の観点として、学生1人あたりの教員数、資格試験の合格率、

理系なら大学院進学率などの確認も勧めています。数値は大学によって算出基準が異なるため、読み取り方の注意点も解説します。また、自分に合った大学を見つ

けるには、見学が欠かせません。例年10月には、1年生全員が2大学ずつを訪問する大学見学会を実施。一般入試による入学者が多く、在学生から刺激を受けやすいと考

えられる首都圏の10数大学に進路指導部が依頼して、平日の大学の姿を生徒に見せています。生徒にも各学年の教員にも強調しているのは、このようなプロセスを経て決めた志望校を簡単にあきらめないことです。最近の生徒は、放っておくと入りやすい大学に志望を変えてしまう一方、一度



進路指導主事 石川好夫

いしかわよしお●教職歴29年。同校赴任歴6年目。同校の卒業生。モットーは「持っているものは全て出す」。高みに届いてこそ見える景色を、生徒と一緒に見たいという。

### 3年間の進路指導の流れ

\*高校提供の資料を基に作成

- 4月 「坂高生になる」新入生オリエンテーション / スタディサポート（以下スタサポ） / 適性検査 / 進路希望調査 / 懇談会
- 5月 「学習習慣の育成」スタサポ振り返り面談 / 懇談会
- 6月 「合格体験記」面談 / 生活時間の面談 / 合格体験記読書会 / 面談 / 三者面談\*
- 7月 「実力テスト挑戦・夏休み計画」夏休み計画立案 / 実力テスト（7月記述模試） / 面談 / 夏季進学補講 / 面談 / 夏季進学補講 / 職業研究課題
- 8月 「将来について調べる」進学合宿 / 職業研究課題
- 9月 「学習への切り替え」模試（2回） / 進路講演会\*
- 10月 「大学学部を知り、高い進路意識を持つ」実力テスト11月記述模試 / 大学見学会 / 学習習慣の点検 / 模試復習 / 面談
- 11月 「社会人から学ぶ」11月模試の振り返り / 面談 / 社会人による進路講演会
- 12月 「入試制度を知る」実力テスト（1月記述模試） / 進路講演会
- 1月 「2年生に向けて決意表明」 / 進路講演会
- 2月 「2年生に向けて決意表明」 / PTA進路講演会 / 進路講演会振り返り
- 3月 「先輩から学習・進路について学ぶ」 / 1年生の反省 / 模試振り返り / 面談 / 卒業生体験発表会 / 進路研究の総括
- 4月 「2年生としての自覚を持つ興味のある学部・学科を調べる」スタサポ / 学部・学科調べ
- 5月 「志望学部・学科を明確にする」スタサポ振り返り / 面談 / 学部・学科研究 / 進路講演会 / 大学見学会 / 懇談会
- 6月 「学習習慣の再点検」合格体験記読書会 / 面談 / 三者面談（\*4） / オープンキャンパス（OCC）指導

- 7月 「夏休みの目標と計画立案」OCCに参加 / 実力テスト（7月記述模試） / 面談 / 大学研究課題 / 成績会議
- 8月 「弱科目 / 分野の克服」進学合宿 / OCC報告書の提出 / 進路講演会\*
- 9月 「文化祭から学習への切り替え」 / 大学見学会 / 進路講演会\*
- 10月 「模試の振り返り」面談 / スタサポ / 「5教科に挑戦」苦手科目から逃げない / 11月記述模試の目標設定 / 11月記述模試 / 大学出張講義 / PTA講演会 / 面談 / 進路講演会
- 11月 「第一志望を宣言する」 / 「3年生の学期スタート」志望校との差を確認しやるべきことを明確にする / 第一志望宣言の提出 / 面談（\*5） / センター同日チャレンジ / 1月記述模試 / 大学出張講義 / PTA講演会
- 12月 「小論文を通して志望を明確にする」 / 模試の復習 / 小論文指導 / センター試験早期対策模試 / PTA講演会
- 1月 「志望に向けて走り出す」2年生の反省 / 12月模試振り返り / 面談 / スタサポ / 卒業生体験発表会 / 進路研究の総括
- 2月 「立派な目標設定」成績会議 / 「夏休み3.5時間学習」悔いのない文化祭 / 推薦入試説明会 / 出願方法 / 「センター出願」夏休みの成果を測る / 大学見学会 / センター試験説明会 / 第一志望校 / 推薦校内選考 / センターマーク模試 / 推薦校内選考 / センターマーク模試 / 推薦校内選考 / センターマーク模試 / 推薦校内選考 / センターマーク模試 / 推薦校内選考
- 3月 「後輩に伝える新しい進路指導の検証」

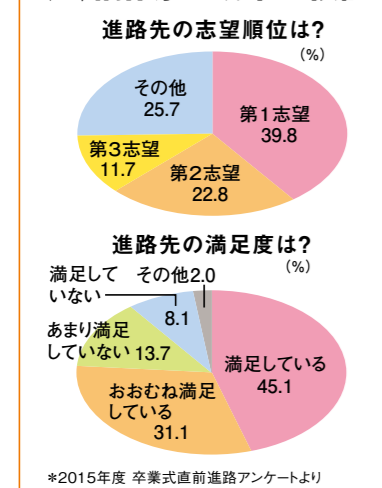
\*5:1月記述模試の目標設定・志望校研究  
\*6:志望校検討・推薦の確認

\*1:学力と学習習慣の2軸を測定・分析するアセスメント教材（ベネッセ）  
\*2:2年の選択科目確認  
\*3:模試の活用方法を知る  
\*4:スタサポの結果をもとに進路の検討・3年の選択科目確定

【 】内は進路目標 ■ 教員の行事 ■ 保護者向け行事

取材・文／見山雄介 撮影／柳田隆司

### 卒業生対象の調査で進路指導の成果を検証



**進路先の全体的な感想例**

- 予想以上に満足:さまざまなことを学びたいと思っていたので、他学部の授業を受けられる制度に満足しています。(立教大学)
- ほぼ予想通り:勉強は難しいですが、仲間と切磋琢磨する充実した生活を送っています。(埼玉医科大学)
- ほぼ予想通り:単位を落とせないので定期試験やレポートなどを全力でがんばっています。多くの人が想像するようなモチベーションな学生生活ではありません。(女子栄養大学)

**進路選択において重要だと感じたこと**

- 偏差値を重視するのではなく、自分が学ぶ姿を想像できる大学を選ぶことです。(東京家政大学)
- 将来やりたいことをサポートしてくれる大学であるかどうかです。私はカリキュラムなどを確認して選びました。(東洋大学)
- めざしていることが実現できる大学を選びました。周りの人から聞く評判、実際に訪れたときの直感的な印象なども重要です。(文京学院大学)

**卒業生のネットワークが指導に説得力をもたらす**

進路指導の質を上げるために、本校では古くから卒業生とのつながりを大切にしています。特に力になってくれているのは、「坂高サ

ポーター」として登録された有志の卒業生。生の大学生活体験を知らせるレポートの執筆、進学合宿における受験体験の講演などを担ってもらっています。例年進学者が多い埼玉大学と埼玉県立大学については、大学の協力を得て、現役学生のサポーターが大学を案内する機会も設けています。

2015年度卒業生に対しては、進路指導の成果を検証するために、卒業前・後にアンケート調査を実施しました（上の図表）。

卒業生全員を対象にした卒業式直前の調査では、第一志望の決定率が約40%、決定進路の満足度は、「満足」「おおむね満足」の合計が約76%など、一定の指導効果を認できました。指定校推薦入試による合格者に依頼した卒業後の郵送調査では、大学生活の様子を尋ねる質問に、「高校時代とは別の視点で物事を考えられるようになった」「トップ校出身の同級生と出会い、彼らがなぜ勉学に秀でているのかわかった」などの回答が集まり、多くの卒業生が、自分を鍛えてくれる環境に出会えていることがわかりました。

ただし傾向を分析したり、全学的に共有したりするまでには至っていません。現在の指導のウィークポイントを見つけ出し、改善に

生かすことが今後の課題です。大学でどのような力がつくりたいか知りたいたい

大学案内や説明会で今ひとつ物足りない点は、入学後に伸びるのはどんな学生なのか、伸びた学生にはどんな力があったのか、かわからないことです。特に、「入試競争率が低くても入学後満足度が高い大学」を生徒に勧めるとなれば、信頼できる情報が必要で

こうした情報は、主に卒業生から得ているのが現状です。数年前に成績下位で卒業し、入試競争率が低い大学に入ったある生徒は、入学後にはマンツーマンで英語を学ぶ機会に恵まれ、語学優秀者だけが参加できる留学を経験。一部上場企業の内定を複数得たというケースがありました。その生徒にどんな力があったのか、なぜがんばれたのかを大学が伝えてくれれば、「この卒業生は○○大学の△△があったから伸びたのだ」と後輩の生徒たちに伝えられます。

生徒にとっても教員にとっても、合格はゴールではありません。大学でも、社会に出た後も、彼らは学び続ける必要があります。そのため基礎を養い、それを養成できる進学先へと導くことが、本校における進路指導の目的です。